

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○1月29日～

先週は年初から続いていた円安の動きもおさまり、ドル／円は高値圏で停滞した動きになってきました。日経平均の高値更新の動きも落ち着き、株価は少し調整入りのリスクも出てきました。

今週は米国でFOMCや雇用統計など注目イベントが多く、ニュース次第で大きな動きが出る可能性があります。

市場は米国の早期利下げを期待していますが米国の経済指標は強いものも多く、早期利下げの必要性は高くないという意見もあります。

今週のFOMC後にパウエルFRB議長がどんな話をするかにも注目です。

3月に米国が利下げに動くという予想は少なく、5月利下げの予想が増えています。

米国株は早期利下げを期待して上昇してきた部分もあるので、利下げが遠のくとドル安、米株安の動きに転じる可能性もあります。

NYダウは38000ドルを超えてきているので、いつ調整が入ってもおかしくない水準です。

年初から続いたトレンドはそろそろ終わり、次の動きがどうなるかに注目したいです。

また、今年11月に米国では大統領選挙がありますが共和党の指名候補争いでトランプ氏が有利な状況になってきました。

今のバイデン政権(民主党)とトランプ氏(共和党)が掲げる政策が真逆というものも多く、そうなる
と投資マネーの流れに変化が出てくる可能性があります。

今年是世界の色々な国で選挙が多いので、政治関連のニュースも見落とさないようにしたいです。

欧州については、インフレがおさまってくれば利下げに動く可能性もあり、米国と欧州のどちらが先に利下げに動くかわからない状況です。

日本は欧米と逆に、春以降に政策変更動く可能性があるため長期金利が上昇してきたりと、多少の動きが出ています。

ただし、海外のようなペースで利上げするようなことは考えられないため緩和的な状態がまだ続く
と考えておいた方がよさそうです。

また、中国の経済がかなり悪化してきているため中国の株価は下落しています。

投資マネーはつながっているのに、中国関連の投資で損が出た場合は、利益が出ている金融商品
を売るような動きにつながるかもしれません。

過去にも中国株の下落でマーケットが崩れるチャイナショックと呼ばれる動きが何度もありました。

中国の動向も今年はしっかり追いかけてたいです。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

<ドル/円>

先週はあまり動きがなく、高値圏で停滞したような状態です。

148円台では上値が重く、146円では反発してくるというような2-3円程度を動いているレンジ相場です。

上値は148.8円を超えると151円を目指す動きが出そうですが大きな材料でもない限り、150円を超えていく動きはあまり期待できません。

買う場合は、超高値圏にあるという認識で上昇についていく形になるため投資初心者には150円超えのレートでの買い参入は難易度が高くなります。

下値は146.5円を割り込むと144円台のサポートが意識されます。

ニュースで急落して、このあたりのレートで下げ止まったら買ってみたいです。

<気になるクロス円>

クロス円も先週は動きが少なく、停滞したような動きになっているペアが多いです。

長期的に見るとクロス円も数年サイクルでの高値にあるものが多く、あまり動きがないのに高いところを無理に買うのはリスクがあります。

株価の調整などで数円程度下がってくる動きが出れば買っていくというような戦略で上手くタイミングを狙って売買したいです。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇/円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では12月鉱工業生産などがあります。

米国では11月ケース・シラー米住宅価格指数、1月消費者信頼感指数(コンファレンス・ボード)、12月雇用動態調査(JOLTS)求人件数、1月ADP雇用統計、10-12月期四半期雇用コスト指数、1月シカゴ購買部協会景気指数、FOMC政策金利、パウエル・FRB議長定例会見、前週分新規失業保険申請件数、1月製造業PMI(改定値)、1月ISM製造業景況指数、1月雇用統計、12月製造業新規受注、1月ミシガン大学消費者信頼感指数などが発表されます。

欧州ではユーロ圏とドイツで10-12月期GDP(速報値)、1月消費者物価指数、1月製造業PMI(改定値)、ユーロ圏で1月消費者信頼感指数などがあります。

ほかにはカナダで11月GDP、英国で政策金利、英中銀金融政策委員会(MPC)議事要旨の発表などがあります。